
トイレにいきたい男～行列編～

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トイレにいききたい男〜行列編〜

【Nコード】

N5044D

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

どうしても我慢出来ないそんな時。トイレっていうのは混んでたり使用中だったりするものです。

俺はトイレに行きたかった。トイレに急ぐってことは、もう要件は一つだけだ。

これ以上は下品だから皆まで言わないが、とにかく今俺は、かなり大変な状況なんだ。

詳しいことは後で話すが、とにかく今の俺は、一秒でも早くトイレに行きたかった。

ハッキリ言おう。も、漏れる……！

ああ、ようやくあったぞトイレが。公園の奥って以外と穴場だけど、ちょっと汚いなあ、見た目が。

だけれどここは我慢しよう。世間体を失うのと、潔癖を我慢するのどっちが大事かは、まあ即答だ。

……って、どうしてこんなに並んでるんだよ？！

「すいませーん。まだですかー？」

「あの……並んでるんですか？」

「そうだよ、全くさつきから出てこなくてさ」

「本当ですか？ あーもう、急がなくちゃいけないのに」

「こつちだつて急がなくちゃいけないんだよ。自分都合ばかり言うな」

そんなことを言うてくるから、カチンときた俺は言うてやった。

「なんですつて？！ 見てくださいよこの姿を。さつき私妻に浮気がバレて頭に包丁が刺さってるんですよ」

「ああ、見ればわかるよ。そんなことは」

「もう本当だったら死んでるんですけど、最後の心残りとして、どうしてもこの腹痛をどうにかしたいんです。だから早く……！」

「それを言ったらお前。これを見る……！」

男の人は、着ていたコートを少し剥がして、自分の胸部を僕に見せた。

「通り魔に拳銃で撃たれて、心臓貫通で即死さ！」

「そ、それは災難でしたね」

「でも、俺どうしても、どうしても！ トイレで、身体に残った不純なものを全部出してから行きたいんだ！！」

「そっちだって自分の都合でしょうが！！ もう早くしてくれよー
ー！！」

「全くですよー！！」

二つ前の人が俺達に話しかけてきた。その人は身体が中に浮いていた。というか足がなかった。

「僕なんて、腹切り婆ってお化けに偶然あっちゃって、上半身と下半身切断されちゃったんすよ。もうこれは運が悪かったとあの世で頑張ってくるしかないんですけど……その前にね、この便秘を解消してからいきたいんです！」

「はあ。ところで、あなた下半身は？」

「それがお恥ずかしいことに、へへッ……どこかで落としてきてしまったんですよ……どなたか下半身貸してくれませんか？」

「「さつさと探してこいよ！！」」

バキーーーー！！ と俺達二人でソイツをぶん殴って、遠くの方へと吹き飛ばしてやった。よしっ、これでライバルが一人減ったぞ。

「うるせえなあ、漏れちゃうだろ！」

「す、すいません。あなたも待ってるんですか？」

「ああ。バイクで事故って首がすっ飛んじやってさ。おまけに子ども轢き殺したから地獄行きだって。散々な話だろ？」

「そうですね……」

「で、潔く地獄にいつてやろうかと思ったら、このガキが『お腹イタイ、漏れるー』とか言い始めるから、責任とって俺が連れてけ
って話になって……なあまだかー？！」

世の中は広いなあ。他人のためこうやって必死こいてる奴もいる

のかあ。

なんて関心しているうちに、お腹がグルグルと鳴り始めた。この野郎……機能が停止している癖にいつちよ前に俺を苦しめるつもりか。

他の方々も同じなようだ。っていうかさっきの首なしライダーさんまでお腹を抑えはじめてる。おいおい、簡便してくれよ。

俺達のイライラと焦燥が募る中、ふいにまた一人、後ろに並んでくる奴がやってきた。これはまた運が悪いのがきたな。

相当急いでいたのか、俺以上にゼエハアゼエハアと、呼吸に落ち着きがない。

「あなたも？」

「ええ、もう時間がないっていうのに！」

「俺達だってさっきからずっと我慢してるんですよ！」

「そうだそうだ。お前一人じゃないんだぞ」

「ガキだって我慢してるんだ！！ お前少しは耐えろよ！」

「いやあ、そう言われましても……」

後ろにやってきた人は、ふいに自分の腹巻を俺等に見せ付けた。

「俺、爆弾マニアの彼女に時限爆弾仕掛けられちゃって、いつ死ぬなら誰か巻き添えにしてやろうと思ったんですけど、昨日食ったパンに当たっちゃって。だから死ぬ前に一つスッキリさせていこうかなーと」

「そうだったんですか。ひどい女ですね、どいつもこいつも」

「しかし爆弾とはまたすごいですね。あと爆発までどれくらいですか？」

「ああヤベエ。もう時間じゃん」

「全く、外が随分騒がしかったなあ」

トイレに入っていた男は、ようやく一通りのことを済まして、トイレから出てきました。

外には、たくさんの死体が転がっていました。それを見た男の人は、あまりのショックを受けて心臓麻痺を起こし、その場で死亡しました。

また一つ、死体がゴロンと増えました。

「うっ。こりゃヒデエ」

「新手の自爆テロか自殺サークルですかね？」

「あるいは連続殺人かもしれない。念入りに調べろよ」

「はい！ にしても、爆死かと思ったら、全員違う原因で死んでるみたいです」

「それだけじゃないぞ。ここから1kmくらい離れたところになって、上半身と下半身の分かれた死体が吹き飛んでたからな」

「これは……自殺というよりやはり連続殺人でしょうか……ところで警部？」

「なんだね」

「トイレに行つていいですか？」

「ダメ、俺が先」

「職権乱用はやめてください。警部、我慢できないんです俺」

「うるさい。俺は痔もちなんだ。我慢していると身体に毒なんだよ！」
刑事と警部が睨み合う中、鑑識のひとがまたやってきました。

「鑑識はいりまーす」

「ああ、ご苦労」

そうして鑑識の人は、トイレの中に入ってきました。耳を塞ぎた

くなる様な嫌な音が聞こえてきました。
「あ、メモエーーーー!!」

(後書き)

明らかにスピリットサッカーのノリを引き継いでしまった作品。
これは駄目。次はもっと落ち着いた奴にします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5044d/>

トイレにいきたい男～行列編～

2010年10月8日15時22分発行